特集

平成19年度 町の決算

平成19年度の決算がまとまり、町議会第3回定例会（9月議会）で認定されました。特別会計を含めた町全体の歳入は187億1953万7千円、歳出は183億9288万9千円でした。平成18年度と比べると歳入が4・5%、歳出が6・3%の増加となりました。

町では、限られた財源を有効に活用し、町民福祉の充実と生活環境の向上を目指してさまざまな事業を実施しました。今月号では、その概要をお知らせします。

一般会計決算

歳入の内訳

一般会計の歳入の内訳を表したものがグラフ1です。

歳入で最も大きな割合を占めているのは町税で、約44億6千万円、前年度より約3億5千万円、8・5%の増加となっています。町民1人あたりでは、約12万円の負担額となります。次に多いのが地方交付税で約12億3千万円ですが、前年度より約1億4千万円、10・3%の減少となっています。続いて県支出金約6億6千万円、国庫支出金約6億4千万円という順になっていて、歳入全体では、前年度より約1億1千万円、1・2%の増加となっています。

主な歳出

5つの重点事業を中心に積極的な町づくり

平成19年度一般会計の歳出は、次の5つの重点事業を中心に、関連するいろいろな施策を積極的に推進してきました。

①子育て支援の推進事業
・こども医療費給付事業
・子育て支援センター事業

②企業誘致の推進事業
・企業誘致推進計画策定事業
・ホンダ独身寮周辺整備事業

③教育環境整備の推進事業
・学校施設整備事業
・学習指導の充実・学力向上対策事業

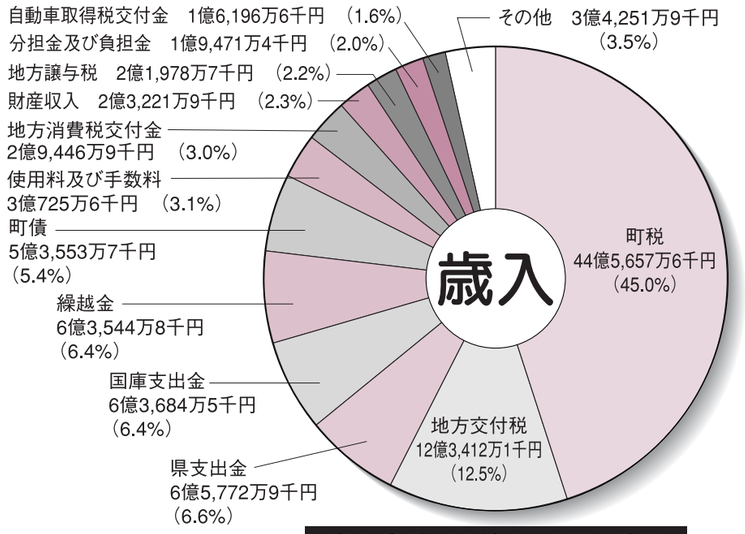
④住環境整備の推進事業
・町営住宅集約建替事業
・道路環境整備事業

⑤福祉・保健の推進事業
・予防接種事業
・地域生活支援事業

歳出の内訳

歳出については、目的別と性質別に分類してお知らせします。

グラフ1　歳入の内訳



歳入合計 99億918万6千円

目的別歳出

目的別歳出とは、教育や福祉、土木といった、使う目的によって分類した歳出のことです。グラフ2からもわかるように、最も多く使われたのが民生費で、次に土木費、衛生費、総務費の順になっていて、歳出全体では、前年度より約3億3千万円、3・6%の増加となりました。町民1人あたりに使われたお金は、約25万6千円となります。

民生費

保育所入所児童委託料に約2億3千万円支出したほか、児童手当の支給、こども医療費および重度心身障害者等に対する医療費給付、各種福祉団体への補助金、さらに介護保険事業負担金として大里広域市町村圏組合に約2億9千万円を支払いました。また国民健康保険特別会計に約3億円、老人保健特別会計に約2億7千万円を繰り出しました。

土木費

町営住宅集約建替事業に約4億3千万円、町道の改良や舗装・側溝整備などに約2億8千万円支出しました。さらに下水道事業特別会計に約2億6千万円を繰り出しました。

衛生費

健康診査や予防接種などの保健事業、ごみやし尿の収集運搬業務、汚泥再生処理センターの運営事業等に支出したほか、大里広域市町村圏組合に約4億1千万円の負担金を支払いました。

総務費

自治振興事業のほか、交通安全対策やバス運行経費の負担金、広報よりいの発行、情報化の推進事業等に使われました。

公債費

公共施設の整備事業等で借り入れた町債の返済で、元金約7億8千万円、利子約2億4千万円を償還しました。

教育費

桜沢小学校体育館耐震補強事業や男衾中学校走路整備事業等小中学校の環境整備等に加え、中学生海外派遣事業、生涯学習講座や人権教育研修会および各種スポーツ大会の開催、鉢形城歴史館の運営事業など、教育・文化の向上のために使われました。

消防費

防災行政無線などの施設整備に支出したほか、深谷市へ消防事務委託金として約5億3千万円を支払いました。

農林水産業費

農道整備工事等に約5千万円支出したほか、遊休農地対策事業、特産品開発事業、営農改善や森林整備、里山保全整備事業など、農林業の振興事業に支出しました。

性質別歳出

性質別歳出とは、投資的経費や人件費、補助金など、使われたお金の内容を形態別に分類したもの（グラフ3）です。

人件費

職員給与、町議会議員や各種委員への報酬等の経費で約19億5千万円、前年度より約6千万円減少しました。

物件費

消耗品費や光熱水費、電話料や郵便料、委託料などの経費で約14億3千万円、前年度より約6千万円増加しました。

補助費等

各種団体への補助金や負担金などの経費で約13億9千万円、前年度より約8千万円増加しました。

投資的経費

道路整備や公共施設の建設などに使われる経費で約13億1千万円、前年度より約3千万円増加しました。

繰出金

特別会計等へ繰り出される経費で約11億7千万円、前年度より約2千万円増加しました。

扶助費

障害者・高齢者・児童などのために使われる福祉的経費で約10億9千万円、前年度より約1億5千万円増加しました。

公債費

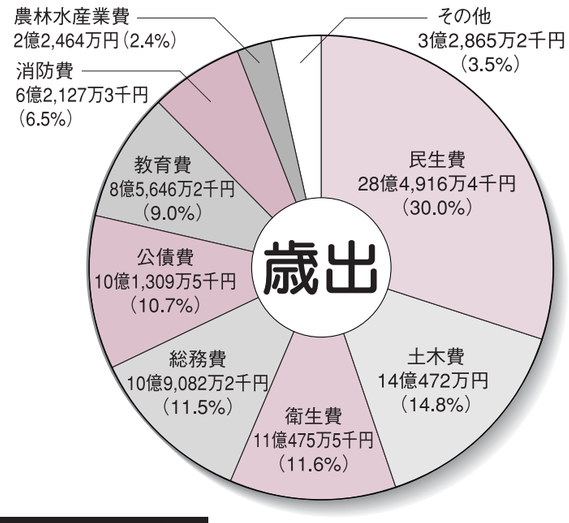
町が借り入れた起債の返済金で約10億1千万円、前年度より約3千万円増加しました。

積立金

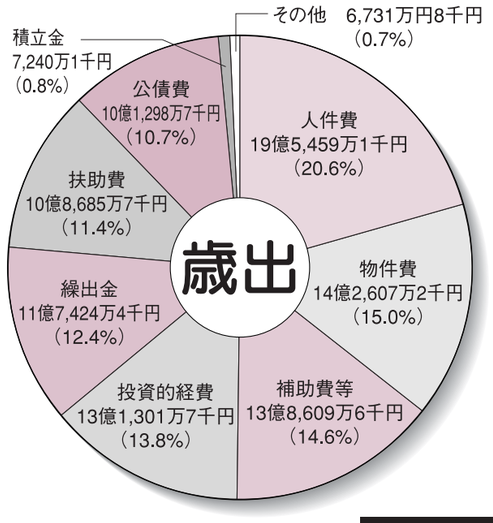
基金への積立金で約7千万円、前年度より約4千万円増加しました。

以上が平成19年度一般会計決算の概要です。今後も安心と活力のあるまちづくりの実現に向け、健全で効率的な行財政運営に努めていきます。

グラフ2　目的別歳出の内訳



グラフ3　性質別歳出の内訳



歳出合計 94億9,358万3千円